

独自の創造力で日々の暮らしに欠かせないサニタリー商品を開発、提供

日ポリ化工株式会社 奈良県香芝市

日ポリ化工株式会社は、FRPユニットバスの専門メーカーとして創業。創業から常に新しいもの、初めてのものを追求して、次々と新製品を開発、業界のトップメーカーとしての基盤を確立した。同社では暮らしに欠かせないサニタリー商品を提供、人々の快適な暮らしを実現させている。

会社概要



会社名：日ポリ化工株式会社
 所在地：香芝市磯壁1丁目950
 電話：0745-76-2461
 F A X：0745-76-2491
 設立：昭和43年(創業：昭和37年)
 代表者：代表取締役 中塚 伊三郎
 資本金：4,000万円
 従業員：230名
 事業内容：FRP成型加工及び
 住宅設備機器の製造・
 販売



大阪営業所

ユニットバスの専門メーカーとしてスタート

日ポリ化工株式会社は、昭和37年にユニットバスの専門メーカーとして現社長の兄が創業した。創業当時学生だった中塚伊三郎氏も一緒に経営に参画し、昭和48年には社長に就任。中塚社長は

ものづくりのまちである東大阪で育った関係上、子供時代から「ものづくりの目」を養っていた。このことが以後の同社の発展に大きく活かされている。

同社は創業と同時に日本初のオールFRP（ガラス繊維強化プラスチック）素材のユニットバス製造を開始。以後FRP素材にこだわり、技術開発に取り組んできた。

ユニットバスとは、工場であらかじめ天井・壁・床や浴槽などを成型したうえで、現場で組み立てる浴室のことで、タイルを貼って作る在来工法に比べ水漏れリスクが少なく、短時間で施工できる。したがって、現在は住宅やホテルなど様々な建築物に利用されており、風呂市場はユニットバスが主流になってきている。

このように今では一般化したユニットバスではあるが、その源流は同社にあるといっても過言ではなからう。

業容を拡大、基盤を確立

世の中が高度成長期に入ると、大阪北部などにニュータウンが次々と建設されていった。当時、都会では風呂といえば銭湯の時代であり、住宅に風呂が付いていないのが当たり前であった。当然ニュータウンの団地（集合住宅）にも風呂が付いていなかった。

まず、一棟のうちの誰かがユニットバスを購入する。すると、ユニットバスの快適さが口コミで広まり、次々とその棟の住民に売れていった。「作ったら飛ぶように売れました。営業は必要ではなかったくらいです。特に大阪万博のころがよく売れました」と社長は当時を振り返る。ただ、ユニットバスの価格は平均的なサラリーマンの月収の2倍に匹敵するほど高価だったため、おいそれと購入できなかった。そこで、当時はまだ一般化されていなかった月賦販売も手がけることにした。今でこそ月賦販売は代金回収専門の業者があ

るものの、当時は独自で代金の回収を行う必要があった。したがって貸し倒れのリスクも覚悟しなければなかったのだが、幸いにも回収不能はなかったという。このようにして業容を拡大、基盤を確立させていった。

新しいもの、初めてのものへのこだわり

同社ではFRP素材だけにとどまらず、天然大理石などの石材によるユニットバス、キッチンカウンター、洗面化粧台など「常に新しいもの、初めてのもの」への挑戦を続けている。そのこだわりは随所に見受けられる。前述したように創業段階で日本初のFRP素材によるユニットバスを製造したほか、FRPユニットバスのオールプレス化（昭和54年）、プレス化による人工大理石開発・製造（昭和56年）、ノンフロンウレタンパネル開発（平成3年）と次々と日本初のものを作り続けてきた。また、世界的な化学メーカーとの技術提携も積極的に行い、常に技術革新にも注力してきた。

最近では風呂関連の市場にキッチン、サッシ、流しなど多種の業界から大手企業の参入がある。OEM供給は一切行わず、100%自社ブランドで対応、他社のコピーも絶対にやらない同社は、「大手との競合でも1対1なら負けません」（中塚社長）と自信のほどを窺わせる。



同社の主力製品「Oval」

マンション、ホテルなどへの供給

今、同社の主流となっているのがマンションとホテルへのユニットバスの供給である。マンシ

ョンへの製品供給は価格帯で大きく2つにわけられる。低価格なら、製品はマンション一棟ごとに一種類でよい。左右の違いはあっても風呂の設計図はみな同じだからだ。ところが高級マンションになるとそうはいかない。設計図はフロアごと、部屋ごとに違う。また、「他の人と同じものは嫌だ。違うものにしたい」などとグレードが高くなるほどオーナーからの個別注文も多くなってくる。

したがって、今や多品種小ロットや多彩な顧客ニーズに対応していかなければならないのだが、同社ではあらゆる条件に対応が可能である。また、FRPに関しては技術的に高度なものにも対応できるとのこと。「一棟のマンションのうちグレードの高い上層部はわが社が引き受け、中低層部は他社で」といったケースもあるのだという。また、マンションに留まらず大手デベロッパーの戸建て住宅にもユニットバスを供給している。

また、ホテルからのオファーも多く、首都圏や大阪、福岡など大都市を中心として一流ホテルへの納入実績も数多い。

今後の展開

「風呂と健康」や「温度と健康」の関わりから同社では温熱療法にも力を入れている。医学界では温熱が自然治癒に関係しガンの抑制に効果があるとされているが、療法には精度の高い温度制御が求められることから、同社では風呂づくりで培ったノウハウを最大限に活かし、研究所を開設、温熱療法の研究を行っている。

昨年には大学との共同研究により、0.1℃の精度で湯温を制御できる全身温浴療法用装置「ヒポクラテス」を開発。今後同社では「風呂・温度・健康」を柱のひとつにしていきたいと考えている。住宅業界においては、新規の住宅着工は減少しているもののリフォーム市場は旺盛である。さらに消費者のニーズも高くなってくるものと思われる。常に新しいものづくりにチャレンジする日ポリ化工株式会社。同社の次の展開が待ち遠しい。

（丸尾、山城）